令 和 ３ 年 度　学 校 評 価　関 係 者 評 価 票

学　校　名	兵 庫 県 立 姫 路 南 高 等 学 校

本年度の学校経営方針

①「時習窮理」「自主特立」「信義執禮」の校訓のもと、文武両道を体現することで考える力を高め、身体や感性を大切にしながら意欲的によりよい社会の創り手となる人間を育成する。
②人権尊重・個性尊重を基礎として、学校・家庭・地域の連携を深め、信頼される学校づくりを推進する。

総合的な自己評価

今年度も、新型コロナウイルスによる約3ヶ月の緊急事態宣言により、様々制約を受ける中で教育活動を展開する年となった。昨年度の経験を踏まえ、感染防止策を講じながら、知恵を出し、創意と工夫で、文化祭や球技大会を実施することができた。また、毎朝の検温報告や手指消毒、換気などを徹底しており、現時点で校内のクラスターはなく学校運営ができていることは成果の一つである。文武両道という項目と高校生活の満足度が高いことが本校の特色である。しかしながら、進路指導体制や保護者の学力向上に関係数項目は数値が高いとは言えず、入学した生徒の学力をしっかりと伸ばし、充実した進路指導ができる体制づくりが課題であると言える。

総合的な学校関係者評価

今年度の学校経営も新型コロナウィルスによる環境変化に対して特異な対応が必要な状況ではあったが、文化祭や球技大会を無事実施されたことは大変素晴らしい。その様な制約がある中でも「学力の向上と個性や創造性の伸長」の各回答においては、生徒の方の評価が高く、個性や創造性を伸長させるチャンスがあると思う。また、北朝鮮人権侵害問題啓発週間の作文コンクール2021で優秀賞と特別賞の2名、そして団体賞と結果を残せたことは大変有意義なことである。伝統的に落ち着いた学校であるが、中には、各項目で低い評価している生徒もいる。これらの生徒の対応についても考えていただきたい。いじめに関する数値について、ここ数年間の結果は変化がない。割合は少ないが、本校に入学してから良かったと思わない方の評価の割合と、いじめや人権尊重について低い評価をしている生徒の割合が同じような割合である。この部分についても解明と改善を願いたい。次年度に向けて、個々の生徒の内面を理解し、より適切な対応ができるよう、教職員の資質向上や連携によって、さらに改善が進むことを期待したい。

(5･思う 4･やや思う 3･どちらともいえない 2･あまり思わない 1･思わない)

重点項目	評価の観点		評価項目	職員9月評価 %（小数第1位を四捨五入） 5	4	3	2	1	9月平均	実施事項	職員12月評価 %（小数第1位を四捨五入） 5	4	3	2	1	12月平均	保護者12月評価 %（小数第1位を四捨五入） 5	4	3	2	1	保護者平均	生徒12月評価 %（小数第1位を四捨五入） 5	4	3	2	1	生徒平均	改 善 の 方 策 と 考 察	学校関係者評価 自己評価の結果と改善方策についての評価（ご意見）
生きる力を育みこころ豊かで自立した人づくりの推進	生命と人権が尊重される、安全安心な学校づくりを推進している。	1	生徒がお互いを思いやり、生命と人権を大切にする心の教育をすべての教育活動を通して行っている。	27	42	21	6	3	3.9	人権教育講演会	43	43	11	3	0	4.3	26	39	33	2	1	3.9	38	40	19	2	2	4.1	職員、生徒、保護者共に昨年より高いことから人権意識は高まっているといえる。保護者にはHPや学年通信等で学校の教育活動の様子を発信することで人権教育の理解を高めていく必要がある。また、今年度は北朝鮮人権侵害問題啓発週間作文コンクールで2名の受賞者が出たが、今年だけで終わらないように取り組みを継続していく。	・「いじめ」「キャンパスカウンセラー」の2項目で、特に保護者・生徒との差が大きい。教員がしている活動に理解が得られていない。もしくは広報が足りない（可視化不足）ことが考えられる。 ・はりま勝原駅から南高まで、道路一杯に広がることなく通学しており地域からは問題が見受けられない。 ・「いじめ」について生徒の「評価1」が2%あるということは、その2%の生徒が、いじめを受けている可能性も否定できない。考察にあるとおり、早急に実態を調査する必要がある。 ・行事は子ども、保護者共に学校の様子を知る良い機会なのに、コロナのために通常通りに行われていないのが残念である。特に保護者はほとんど学校に行くことがなく、情報も広報誌や学年だよりなどから得るしかない現状である。役員をしていると年に数回、会議で学校へ行く機会があり先生方から直接生徒の様子を聞かせていただくのでよく分かってよい。 ・コロナで行事の日程短縮で1日だけの文化祭でしたが子供が準備が楽しいとはりきっていたのが心に残っている。コロナ対策をしつつ、1日だけでも行事をしていただいて子供も思い出に残るいい文化祭になったと思う。 ・1･2の項目で、評価2･1の生徒が20～30人いる事になる。キャンパスカウンセラーと相談できているか。悩みは解決できているか検証が必要。 ・ヴァッション高校との交流はどのようにされているのか教えていただきたい。 ・項目1：今年度も教員9月評価と教員12月評価の改善幅が大きいのは何が原因か解明して欲しい。 北朝鮮人権侵害問題啓発週間の作文コンクール2021で本校1年生2人の受賞（優良賞と特別賞）そして団体賞と大変素晴らしい。 ・項目2：平成28年度では、2と1を評価した生徒は10%ある。過去3年は5～6%で固まっている。令和4年度は、是非目標を「いじめゼロ」に置き、積極的改革に努めていただきたい。 ・項目3･4･5：自己評価は適切である。 ・項目6：自己評価は適切です。国際交流のオンライン化で、全生徒が参加し、オンラインで外国の学生と文化交流等が出来るようになると良いと思う。 ・項目7：自己評価は適切である。 ・項目2･3の保護者・生徒回答の「1・2」の回答については、面談や追加アンケートを通じて具体的な意見の把握とそれに対する対策が望まれる。
	いじめの未然防止・早期発見・早期対応を行う。	2	生活実態調査やきめ細かな面談等でいじめの早期発見に努めている。	49	42	9	3	0	4.5	いじめアンケート	46	34	20	0	0	4.3	19	22	56	2	0	3.6	28	29	37	4	2	3.8	生徒評価の1・2合わせて6%、保護者評価も2に2%の回答があり、看過することはできない。いじめアンケートの方法、回数等を再考するとともに、担任面談等をさらに充実して、未然防止、早期発見・解決に努めたい。	
	生徒の個性を尊重する生徒指導が行われている。	3	家庭との連携を密にして、生徒の内面理解に努め、個々に応じた生徒指導を行っている。	42	39	15	0	3	4.2		43	31	17	9	0	4.1	19	37	39	4	2	3.7	27	36	26	9	2	3.8	保護者・生徒評価の1・2の回答を受けて、非常に残念に感じる。連携の不足、内面理解の不足、個々対応、いずれの部分が特に欠けているのか不明であるが、職員評価の2も9%あり、具体的な意見を把握し、改善していきたい。	
	さまざまな場面で生徒が自主性を発揮できるよう指導する。	4	学校行事や生徒会活動・部活動等が、生徒の自主性に基づき活発に行われるように指導している。	36	39	21	3	0	4.1		20	60	20	0	0	4.0	29	40	23	6	2	3.9	43	34	16	5	3	4.1	昨年度以降、コロナ禍での学校行事実施については、生徒、保護者の思いを従来通り反映させることは困難な状況にある。可能であるならば、1・2の回答については記述式で意見をいただけると有難い。	
	安全教育を行い、命を尊重する態度を養う。	5	心肺蘇生法等の研修や防災訓練・感染症予防対策を通して自他の生命を尊重する安全教育を行っている。	39	46	12	0	3	4.2	救急救命講習動画作成・防災訓練	37	51	11	0	0	4.3	26	32	38	3	1	3.8	34	34	22	7	3	3.9	学校における新型コロナウイルス感染症に関する衛生管理マニュアルを基に、感染症対策を継続している。心肺蘇生法等の研修については、職員、生徒とも感染症予防のため実技研修は行わなかったが、今年度は本校保健体育科教諭が中心となり作成した動画を用いて、各自が研修を行った。感染症予防の徹底には行動変容の定着が課題だと思われるので引き続き感染症予防の啓発に努めたい。	
	国際的視野を持った生徒の育成に努める。	6	ALTを積極的に活用する等、生徒の英語力の向上や国際的な視野の拡大に努めている。	52	33	12	0	3	4.3	ヴァッション高校との交流	57	34	6	0	3	4.4	18	36	41	5	1	3.6	44	35	13	5	3	4.1	ALTは前年に引き続き全学年に積極的に関わってくれており、生徒の興味に応じたトピックを扱い4技能の育成に努めている。2年目となったオンライン交流もやり取りがスムーズになった。保護者への活動報告が未だできておらず、HPでの活動報告に取り組んでいく。	
	教育相談や特別支援教育を充実する。	7	キャンパスカウンセラーとの連携を密にし、生徒の心を支える取り組みを推進している。	39	39	18	3	0	4.2	キャンパスカウンセリング	46	40	11	0	3	4.3	19	32	43	5	1	3.6	34	34	26	4	3	3.9	今年度は22回実施している。昨年の年間利用件数41件に対して、今年度は1月末時点で40件となっており、昨年を上回る利用となっている。これは、心理的ケアが必要な生徒が増加しているということよりも、重症化しないうちに、担任が声がけを行い、支援につなげることができているためと考える。今後も学年と連携し、必要なサポートや専門機関との連携についても引き続き行っていきたい。	
学力の向上と個性や創造性の伸長	自ら学び探究する姿勢を身につけさせる。	8	学問の魅力を伝え、自ら考え勉学に励む態度を育成している。	18	36	36	9	0	3.6		26	37	34	3	0	3.9	15	34	39	11	2	3.5	18	39	28	12	3	3.6	約60%の生徒が4以上の評価をしている一方で、15%の生徒は2以下の評価である。授業において、学問の魅力が伝わるような工夫をしたり、主体的に学ぶ機会を増やしたりするなど、自ら学び、努力する姿勢をさらに育成したい。	・教員と保護者・生徒との差を見てみると、教員が思っている以上に生徒は努力しているのかもしれない。試験の点数以外でも学習状況を見る方法があれば、この差はなくなって行くと考える。 ・大学進学も順調に進んでいる感じがする。 ・「勉強」というものにイメージに魅力を持たせるということは、非常に難しいと思う。その中で保護者・生徒の大多数が高評価を示していることは、先生方の取組の成果と感じる。 ・進路指導についても子供の可能性を広める進学先のアドバイスをしてもらい、前向きに受験に取り組むことができた。 ・知らないことを学ぶのは本来楽しい事。現実は大学受験がある為、苦しい勉強になってい る生徒がいるかもしれない。 ・先生から学ぶ事と共に生徒間で教え合う雰囲気はどうか知りたい。 ・項目8：自己評価は適切であるが、生徒の2以下の評価が15%で保護者も13%となっている。全員の生徒に、学問の魅了を授業で教員が伝えることは困難なことである。授業で沢山の科目を学ばなければならない、生徒は試験に出る大切なことを効率よく学びたいと思っているため、保護者もそのように考えていると思う。 ・学問の魅力とは、特定の科目に魅力を持つことか、魅力ある授業とは、生徒が聞いて面白い授業のことか。 ・項目9：自己評価は適切である。情報処理能力とプレゼンテーション能力を高めることは将来に向け大変重要である。 ・項目10･11･12：自己評価は適切である。 ・項目13：タイムマネージメントの取り組みは大変大事である。卒業後の仕事や学習研究に大きく活かせる。生徒に、勉強時間やクラブ活動等の時間管理の重要性を認識させて、手帳だけでなく、必要に応じてPCや携帯電話等のアプリを有効に活用して頂きたい。 ・項目14･15･16･17･18：事項評価は適切である。 ・この項目については、全体的に職員の方の評価よりも生徒の評価が高くなっている。このことから、生徒からはポジティブにとらえられていると思うので、さらに伸長させることを期待する。
		10	主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業を実践した。（ 5:5回以上 3:1回～4回程度 1: 実践していない ）	24		67		6	3.3		43		54		3	3.8													緊急事態宣言が発令されるなど、対話的な学習活動は実施できない時期があった。しかし、その中でもICT機器を活用するなど、主体的に学ぶ授業を実施する教員も多かった。コロナ禍でもできる対話的な学習方法を模索していきたい。	
		11	主体的・対話的な授業を取り入れた場合の構成割合はどの程度ですか。（ 5: 50%程度 3: 30%程度 1:10%程度 ）	27		52		18	3.1		29		54		17	3.2													授業の中の構成割合は高い方が良いということではない。教科・科目の特性に合わせて授業展開を工夫し、生徒が主体的に学びに向かう姿勢をさらに育成していく。	
	指導目標の明確化や指導方法の工夫をするなど授業改善に取り組んでいる。	12	計画的に研究授業や公開授業を行い、授業内容や指導方法について意見を交換し、授業改善に取り組んでいる。	21	42	21	12	3	3.7		17	51	11	17	3	3.6	16	34	39	9	2	3.5	26	41	24	6	2	3.8	今年度も緊急事態宣言が発令されるなど、研究授業を実施する余裕はあまりなかった。公開授業週間は10月末からの3週間を設定したが、授業見学はあまりできていなかった印象がある。しかし、ICT機器の活用方法など、普段から授業改善に向けての意見交換は活発にできている部分もある。互いの意見交換を活発にして、授業改善につなげたい。	
	自らの能力を自ら向上させる基礎力を養う。	13	生徒自身にタイムマネジメントを行う習慣を身につけさせ、家庭学習を定着させる指導を行っている。	9	39	30	18	3	3.3		11	43	31	11	3	3.5	16	40	32	9	3	3.6	24	38	29	7	2	3.8	家庭学習の課題を課しているが、タイムマネジメントを行う習慣を身に付けさせる具体的なアプローチはできていないため、教員の評価が低いと考える。生徒が課題をこなすだけではなく、自分で計画を立てて自ら学習する習慣を身に付けられるようにしていきたい。	
	基礎学力の定着と応用力の伸長をはかる。	14	小テストや週末課題等を活用して、生徒に基礎学力を定着させるよう努めている。	46	36	15	3	0	4.3		46	43	11	0	0	4.3	24	43	26	6	2	3.8	38	37	18	5	2	4.0	小テストに関しては、朝のSHRで実施したり、グーグルクラスルームを用いて実施している。また、週末課題にも計画的に取り組ませているため、教員、生徒ともに評価は高いと思われる。さらに基礎学力を定着させ、思考力や判断力などにつながるようにしていく。	
	進路指導が、組織的・計画的に実施されている。	15	進路指導が、年間計画に基づき、かつ職員間の連携を密にして、組織的に展開されている。	24	21	30	18	6	3.4		11	54	17	11	6	3.5	21	43	28	7	1	3.8	33	37	22	6	2	3.9	年間計画に従って進路目標の実現に向けた指導に取り組んでいる。生徒の学力向上と進路に対する意欲向上に向けて今一度職員間で目標の確認と共有を行い、年間計画の見直し等の具体的対応策を検討していく。	
	キャリア教育が充実している。	16	就業体験や大学訪問等を通して体験的なキャリア教育が展開されている。	24	36	27	6	6	3.7	職業人講話・大学模擬授業・大学訪問・科学実験教室 ・算数教室	23	43	29	6	0	3.8	21	37	31	9	2	3.7	38	37	16	6	3	4.0	地域の子ども対象の算数教室ボランティア等の体験的なキャリア教育に積極的に参加した生徒の評価は高いと考えられる。また、大学訪問、職業人講話等によって自己のキャリアプランへの意識や学習意欲が高まった。	
	進路目標達成のための指導体制が確立されている。	17	進路情報の共有や、進路目標達成のための方法が各職員の進路指導に活かされている。	12	39	27	12	9	3.3		6	34	46	9	6	3.3	14	34	41	8	2	3.5	26	39	24	9	2	3.8	情報を整理し、必要な事柄をより有効に生徒・家庭に伝える方法を模索していく。推薦入試における小論文・面接等の指導においては、当該学年の枠を超えて出来るだけ多くの職員で担当する必要がある。	
	知・徳・体の調和がとれた人間を育成する。	18	文武両道の精神にのっとり、学習にも部活動にも意欲的に取り組ませている。	36	33	15	6	9	3.8		26	37	26	11	0	3.8	33	40	20	5	1	4.0	49	36	12	2	2	4.3	保護者・生徒ともに最も高い数値がついており、本校の文武両道というイメージが浸透している。生徒・保護者は変化がないが、職員は昨年と比較すると0.2ポイント上昇した。このことは、昨年と比較して部活動が実施できていること、全国大会や近畿大会等に複数の部が出場する結果を得たなど、目に見える成果を上げていることを反映していると言える。	
地域に信頼される学校づくり	外部組織と積極的に交流し、教育活動を展開している。	19	地域の行事に積極的に参加するとともに、、様々な奉仕活動に取り組んでいる。	18	39	27	12	3	3.6	ふるさと貢献事業	11	49	34	6	0	3.7	10	31	48	8	3	3.4	28	34	26	10	3	3.7	各学年が学期に1回ずつ学校の廻りの溝の清掃や通学路のゴミ拾いなどの清掃活動を熱心に行っているが、その活動が保護者には余り周知されていないため、保護者と生徒の評価にやや開きがあると思われる。今後保護者にも活動の様子が分かるように学校新聞（姫南だより）等を通じて報告をしていきたい。また、毎年行っていた学校・地域防災訓練については、多様な世代からの学び機会となるとともに、災害時における共助の精神を養うための貴重な機会として有効に機能させるものであったが、今年もコロナ禍で中止せざる負えなく残念であった。来年度はぜひ行いたい。	・ホームページが今風でない可能性が高い。受検者数に影響する案件である。 ・通学時に教職員も信号の所で指導する姿に感謝している。 ・都市化が進む一方で、若年層と自治体との関わりが深くなっている傾向がある中で、本校において地域社会との交流がさかんに行われていることは、すばらしい。本年度においては、コロナ問題の影響が大きく計画が実行できなかったことは残念であるが、感染防止を第一に考えたことであり、おかげでクラスターが発生しなかったことは、何よりも勝ることである。 ・子供は南高が好きで、学校の雰囲気も明るく活気がある感じがしている。 ・項目19･20･21：自己評価は適切である。 ・地域防災訓練は今年も中止され残念である。イオンも地域の皆様と交流できる貴重な機会として認識している。
	地域の学校と連携を取り、交流を図っている。	20	小・中学校や大学と連携し、学習活動や部活動での交流を図っている。	18	39	21	18	3	3.5		6	34	51	9	0	3.4	7	27	49	13	5	3.2	15	25	34	17	9	3.2	部活動を通じたふるさと活性化活動として計画していた、「ソフトテニス研修大会」「少年野球教室」「コーラス部演奏会」については感染症予防のため実施できなかった。特色選抜生徒による成果発表は継続して実施していきたい。小・中学校や大学との連携については、コロナ禍であっても実施可能な方法を検討していきたい。	
	保護者や地域住民に積極的に情報提供している。	21	定期的に学年通信等を発行、ホームページを更新し、学校生活の様子がわかりやすく迅速に公開されている。	33	49	15	3	0	4.1		43	40	17	0	0	4.3	19	36	35	9	1	3.6	21	32	33	10	4	3.6	今年度、新たに学校新聞を発行することになり、4月にはホームページの内容を一新し、これまでよりもこまめに更新を行っているが評価の数値にはあまり反映されていない。元々高めの数値ではあるが、ホームページ等の閲覧回数が増えるよう、他校等の事例を参考にさらなる改善を図りたい。	
		22	お子様は、本校での高校生活に満足していると思いますか。														39	38	16	4	2	4.1	48	32	15	3	2	4.2	過去3年間、保護者の平均値は変わらず、生徒については令和2年に比べると、0．2 下がり、1と2の評価については、4から6に増えている。保護者・生徒とも平均値は 他の評価の中でも好評価であると思う。一方、1・2の評価が6%に増えているのは、 コロナ禍にあって、生徒が楽しみにしていた学校行事の中止や縮小が原因ではないかと思われる。今後LHRの充実を工夫する必要がある。	・ここは平均値をみてはいけない。不満足の2%～5%の理由、原因を探らないといけない。いじめ、大きな事件の危険性も考えることが求められる。 ・本年度においては、コロナ問題が全てのことに大きく影響しており、その中で、この評価結果になるということは、本校の教育方針と先生方のご尽力の賜物と感謝している。 ・おおむね楽しい高校生活を送っている生徒が多いと思う。 ・項目22：自己評価は適切である。 ・項目23：本校に入学して良かったと思っていない生徒評価1が2%　生徒評価2が4%いる。これは評価項目2(いじめ)の生徒評価1が2%　生徒評価2が4%と同じである。いじめで苦労している生徒は本校に対して大変嫌な感情を持っている。このような生徒が出ないように、生徒個々の内面や環境を精査し、1人ずつ対策を講じていただきたい。本校を卒業しても、母校に誇りを持ち続ける卒業生に変えて頂きたい。 項目24：自己評価は適切である。 ・既に実施されているかもしれないが、リンクへのQRコードなどを利用すると評価結果のアクセスは増えるのではないか。
		23	本校に入学して良かったと思いますか。																				56	27	11	4	2	4.3	過去3年間、保護者の平均値はあまり変わらず、評価は低い。保護者は子どもの学力向上とそれに見合った進路実現を願っているのではないだろうか。学校の様子や地域との　連携については、学年通信や学校ホームページでの情報があまり伝わっていないように思われる。情報伝達のあり方を再考する必要がある。	
			本校は保護者や地域の期待に応えていると思いますか。														19	36	38	5	2	3.7								
		24	本校の学校評価の結果（ホームページ上に公開）をご覧になったことはありますか。　（2：いいえ　1：はい）																	54	46								昨年度、一昨年度とほぼ評価は変わっておらず、約半数の保護者は閲覧していない。PTAの役員会で知らせていく、PTA総会の場でペーパーを配付して説明の時間を設けるなど、保護者に伝える場を検討する必要がある。	